

総合戦略推進委員による意見・提言のまとめ

◎総合戦略推進委員から提出された主な意見・提言一覧

→別紙（内容を総合戦略の基本目標及び施策の方向性に沿って分類・整理）

<<分類・整理結果のまとめ>>

《基本目標：１》

このたびの人口減少克服・地方創生に向けた取組の柱となる「雇用創出」に係わる意見・提言が多数を占めた。

空き家・空き店舗（中心市街地含）の活用を始めとした創業促進、既存企業への支援等による地場産業の活性化、企業誘致や高齢者のビジネスモデル構築等による新たな仕事環境の創出、農産物や森林資源の活用といった農林業の成長産業化、インターン制度等による人材の育成・確保、既存企業の技術力等を生かした次世代産業への進化 など

《基本目標：２》

空き家・空き地の有効活用、専門家等による情報（桐生市の魅力）発信の強化、低廉な住宅（土地）の提供等による移住・定住者への支援、イベントの開催による集客や観光資源の有効活用等による観光振興、他にも、個性的・魅力的な他にない店を増やす施策 など

《基本目標：３》

出会いの場の提供による婚活支援、第２子や第３子に対する保育料等の優遇拡大などによる子育て世代への手厚い支援、出産や子育てしやすい職場・地域環境の整備、ものづくりや理科等の専門教育や問題児対応能力向上のための強化プログラムの実施等による特色ある教育の充実 など

《基本目標：４》

自然災害の少ない安全・安心な地域の活用や公共交通網の利便性の向上、人口減少に応じた施設の集約・共有化やコンパクトシティー構想等による広域的・計画的なまちづくり、医療サービス等の充実、重伝建地区を始めとした観光・文化資源の活用、水（河川）・森林・畜産等を活用したバイオマス発電などの環境先進都市構想、市民活動や生涯学習の充実、東武線や両毛線の利便性向上といった地域間連携 など

《全体》

人口減少に応じた費用対効果等を踏まえた選択と集中の必要性、地域内循環の仕組みづくり などの提案がなされた。

(仮称)桐生市「人口ビジョン」・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」原案の骨子に対する主な意見・提言【総合戦略推進委員】

人口ビジョン	分野	意見等
	人口の将来展望 (人口規模)	2060年、70,000人
	人口の将来展望 (人口規模)	2060年、88,000人
	人口の現状・将来 展望に必要な調査・分析	調査・分析項目の追加等について、何点が提案がなされたが調査・分析方法等について検討中

目標	施策の方向性	意見等
1	(1)	学制にとらわれない専門教育機関の充実等による新たなビジネスを立ち上げる創造的人材の育成
1	(1)	若者が居住・店舗用として、商店街の空き家・店舗を活用しやすいよう支援
1	(1)	商店街の空き店舗や市有地の低価格(無償)での提供
1	(1)	産・官・学・金による起業や創業に関する育成・支援
1	(1)	桐生の織物を使ったインキュベーションブティック、ファクトリー・キッチンなど、創業支援に向けた人材育成と誘致
1	(1)	起業を歓迎する雰囲気づくり(空き店舗の無償貸付け、スキルアップのための学びの場の提供や先輩経営者からの個別指導の機会を創出)
1	(1)	「コトモ」のような活動の継続支援や内外に向けた情報発信による起業促進
1	(2)	ものづくりの高度な技術を始め、製品・企業の良さを発信
1	(2)	新製品・新技術開発を始めとした、織物・機械金属産業等の地場企業に対する産・官・学・金による支援
1	(2)	織物産業を始めとした伝統産業の価値を再構築
1	(2)	織物産地として桐生独自のものづくりの仕事に焦点を絞る、織物・パチンコ・自動車などの伝統産業の技術を基に次の産業を生み出す
1	(2)	若い世代の賃金UPのため、賃金上昇を行った企業に対する優遇措置(法人税軽減など)
1	(3)	水質を誇る桐生川の利用が業績発展につながるような企業の誘致
1	(3)	新里地域を始め広めの用地を確保し、引き続き企業誘致の推進
1	(3)	都市のコンパクト化の戦略的な取組により、空いたスペースを企業立地などの活用
1	(3)	工場誘致に限らず、群馬大学との連携などによる試験研究機関の誘致
1	(3)	新規雇入れを行った企業に対する優遇措置(法人税軽減など)
1	(3)	高齢化を逆手にとって、高齢者ビジネスモデルの構築
1	(4)	黒保根地域などを有効活用し、農産物等をブランド化して”桐生ならではの”の特産品として全国販売
1	(4)	森林資源を活用したバイオマス工場や温泉施設の建設
1	(4)	先進技術の導入、施業の集約化などにより、木材の有効利用
1	(4)	地域資源(山、川)に磨きをかけるとともに、それらを活用した産業の後押し
1	(5)	小・中・高における学生の市内企業での実習(研修)
1	(5)	市内企業を知ってもらうための機会を設ける
1	(5)	地域内外の大学生向けインターン制度の充実
1	(5)	都市再生の経験を持つ優秀な人材の誘致
2	(1)	空き家を若者向けに改修し、安価で提供
2	(1)	まちなかの空き家・空き店舗情報を整理し、全国に発信
2	(1)	空き家・空き地の流動化促進などによる人口の中心市街地への誘導
2	(1)	自然災害が少ない、交通インフラ等も整っている、歴史・文化・自然が豊かさなど、情報発信を強化
2	(1)	インフラ、歴史、伝統、教育、自然など、充実したまちの魅力をアピール
2	(1)	自然の豊かさなど、外向けの情報発信を強化
2	(1)	桐生市の魅力を明確にし、アピール
2	(1)	地域の魅力をそれぞれの世代(20～30代前半、30後半～40代)に応じたライフスタイルとセットで提案
2	(1)	コンサルタントを登用し、ブランド力強化と情報発信
2	(1)	強力な情報発信力を持ち、市民活動等の核となる「民間まちおこし会社」の設立
2	(1)	充実した社会資本に若年層を呼び込む「地方留学」の推進
2	(2)	住宅(土地)の確保・提供
2	(2)	世代に応じた低廉な居宅の提供
2	(2)	古い住宅とリノベーションモデルの提供

総合戦略	2	(2)	移住・定住を図るための直接的な支援や地域住民による側面からの支援
	2	(2)	小・中・高における進学時の祝い金の支給
	2	(3)	岡公園周辺を総合レジャー地区へと再開発(アクセス再整備、アウトレットの招致、食・温泉・宿泊施設の集約など)
	2	(3)	水車小屋、糸繰り、染色、機織などの風景の再現
	2	(3)	富岡製糸場との観光ルート連携、重伝建地区、日本絹遺産等の地域資源の整備・活用による観光振興
	2	(3)	体験型観光として、富岡製糸場との連携(養蚕・製糸＋桐生の織物)
	2	(3)	外国人誘客のためのインバウンド対策の強化、みどり市との連携やわ鐵の活用などによる日光方面からの誘客
	2	(4)	相乗効果を生み出すようなイベントの開催(日程や実施方法等の工夫)
	2	(4)	桐生が岡動物園や遊園地に来る市外の人に桐生の魅力を知ってもらうための機会を設ける
	3	(1)	市内の企業が集まり、定期的な懇親会(企業コン)を企画し出会いの場を提供
	3	(2)	現在の補助金等の効果を検証し、若者や子育て世代への施策を手厚くする
	3	(2)	ひとり親家庭を始め子育てをしている人たちに対する買物サービスなどの支援
	3	(2)	第2子保育料半額や第3子生誕に伴う大幅優遇措置
	3	(3)	遊びの広場や「立ち寄り子育て小屋」など若い世代の子育て支援の充実
	3	(3)	出産・育児休暇の充実など、子育てに関して安心して働ける職場環境(企業)の整備
	3	(3)	子育て(特にひとり親家庭)を親だけにまかせるのではなく、地域がサポート
	3	(3)	出産・育児休暇の取得しやすい職場環境(企業)の整備
	3	(5)	ものづくり等の専門教育、飛び級、大学院までの一元化といった教育特区など、理科教育等専門教育の充実
	3	(5)	問題児対応能力向上のための強化プログラムなどにより学級崩壊のないまちを発信
	3	(5)	乳幼児期の教育に重点的に投資
	3	(5)	午前中集中して勉強して午後は遊ぶといったオランダのイエナプランのような取組
	4	(1)	自然災害の少ない安全・安心な地域の活用
	4	(1)	公共交通網の利便性の向上(JR東武、上電、わ鐵の連結性向上や新駅の設定)
	4	(1)	近隣都市の企業に勤める従業員を呼び込むための、利便性の高い交通ネットワークの構築
	4	(1)	車依存からの脱出により、可処分所得を確保
	4	(2)	今後、生き残るために必須の条件となる施設の共有化と集約
	4	(2)	一定の人口減を想定し、その規模にふさわしい都市の要素・機能を地域に応じて準備
	4	(2)	広域的な視点での道路網の整備などによるアクセス向上や市有施設を始めとした行政サービスの効率化
	4	(2)	コンパクトシティ構想(市街地の再開発と公共交通機関を生かした中心市街地への往來の利便性向上)
	4	(2)	人口減少に伴ったコンパクトシティの形成
	4	(2)	医療機関、福祉施設、保育施設、教育機関、商業集積といったコンパクトシティの形成
	4	(2)	市有施設の整理、民間の資金とノウハウを活用した公民連携の研究
	4	(2)	大型ショッピングモールにはない、個性的で、魅力的な、他にない店を増やすための施策
	4	(3)	厚生病院(東毛の中核医療機関)と市内の診療所(産後ケアなど)と役割分担を行い、安全・安心や子育て支援の取組などを外へアピール
	4	(3)	医療機関等の整備された地域の活用
	4	(4)	重伝建の町並み、祇園祭りの鉾や屋台、からくり人形、食文化等の資源活用
	4	(4)	重伝建地区を始めとした歴史・伝統・文化の活用
	4	(5)	盛んな養豚業を生かした畜産バイオマス発電(残さや有機肥料、熱はハウス園芸の利用も視野に)
	4	(5)	豊かな水源や森林資源を利用したエネルギー先進都市の取組
	4	(5)	水資源や森林資源の利活用(バイオマス発電、CO2排出権取引、環境税等を活用した建築資材等の生産)
	4	(5)	群馬大学、技術の高い中小企業を生かし、次世代の産業への進化を目指した環境先進都市の取組
	4	(6)	市民活動や生涯学習の充実によるひとづくり
	4	(7)	東武線の時間短縮と両毛線の利便性向上による新幹線網とのアクセス向上(北関東の外環状線として水戸線と両毛線の整備を3県で陳情)
	4	(7)	車依存からの脱出により、可処分所得を確保
	4	全体	得意技の活用・創生とそれらへの集中投資
	4	全体	人口減少を受け入れ、選択と集中が必要
	4	全体	費用対効果などを踏まえた選択と集中による予算配分
	4	全体	地域外へのお金の流出は地域を貧しくするため、地域内にお金が残る仕組みづくり